

「いつもの何気ない様子」を発信する大切さ。SNS による情報発信の取り組み

積極的に SNS を活用し、法人内の事業所ごとで日常を発信する取り組み。SNS を活用することで見えてきたメリットとは。

【取組のポイント】

- 法人の取り組みをより広く発信できる手法として SNS を採用
- 法人内で最低限のルールを設定し、各事業所で頻回に投稿している。事業所内の様子を発信しているため利用者家族からの喜ぶ声が多い。SNS を見た人が採用の応募に至ったこともある
- 情報発信の取り組みを通して、職員が自分たちが行ったケア・仕事の振り返りにもなっている

広報誌以外の情報発信を探して

広報誌にて法人事業所の様子や取り組みを発信していたが、発信できる頻度や範囲に限界があった。利用者・家族・施設近隣の人以外に、これから介護の仕事をしてみたいと思う人にも法人の取り組みを知ってもらいたいと思い、SNS の活用をスタートした。

文字だけでなく、写真や動画など目で見て伝わる情報を

現在、Facebook と Instagram を活用している。特に Instagram は写真や動画を中心とした視覚的にわかりやすい情報発信が得意で閲覧者は 20 代～30 代が多く、利用者の活動や職員と利用者が一緒に楽しんでいるところを中心に投稿している。

フォロワーを増やすため、職員がフォローすることや相互フォロー、ハッシュタグ (#) づけを行い、Instagram では現在約 3000 人のフォロワーがいる。



法人内の管理者レベルで SNS 活用の目的を共有

現在は、法人内の各事業所で SNS 担当の職員が投稿を行っている。「撮影・投稿を希望しない利用者は載せない」など最低限のルールを決め、法人内の管理者レベルで SNS 活用の目的やルールを共有し、運用に至っている。

利用者・職員の普段の様子を投稿。求人応募のきっかけにも

スマホやタブレットで撮影。全職員が撮影を行っている。行事やイベントだけではなく、普段の食事や余暇活動の様子、職員の働く姿などにかくたくさんの写真を撮りためるようにしている。



さらに法人 SNS を見た人が、普段の施設の雰囲気や職員の働く様子を知れたことで求人の応募につなが

がったこともあった。

リアルタイムな投稿を心がけ、利用者の家族からの喜びの声も多い

できるだけリアルタイムな投稿を心掛けており、利用者の家族から「面会以外の普段の様子が見れてうれしい」・「食事がおいしそう」・「余暇活動が楽しそう」・「関わってくれている職員の顔が見れて安心する」という声が多い。



Message

楽しみながら、まずは「やってみる」こと

写真をいっぱい撮って、見る人が見たいと思えるようなものを載せてみてください。続ける中で、家族や見てくれた人の声があると思います。まずは挑戦してほしいです。

行事ごとだけではなく、利用者と職員の普段の何気ない様子を見てもらいたいです。

利用者の暮らしを良くして、それを発信。

SNS ありきではなく、利用者の生活基盤を整えることができ、その上での取り組みとも考えています。1人ではできないことでもあるので、職員みんなで取り組んでほしいです。

まずは、やる側が楽しむこと。それも利用者や SNS を見る人にも伝わると思います。今、入居先選びや就職先選びに SNS を見て行き先を考える人も出てきています。

<問い合わせ先>

社会福祉法人関寿会 はちぶせの里
養父市尾崎 1327 TEL: 079-667-3107

見る人が「見たい」と思う内容を投稿したい

近隣の中学・高校へ出張授業を実施する際に、「どんな情報・内容」を見てみたいかをアンケート。その結果を投稿内容に反映している。

また、今後は実際の介助場面の様子や介助方法など、投稿内容の幅を広げることを検討している。

SNS 投稿や撮影を通じて、職員の利用者理解が深まってきている

職員が普段の生活の中で起こる些細なことでも写真に残すよう心掛けるようになったことで、それぞれの利用者が好きなことや心情の変化、提供しているケアに対する反応などを主観的にも客観的にも把握できるようになってきており、普段の業務に良い影響も生じている。



Facebook



Instagram